

平成21年6月26日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2008

課題番号：17320104

研究課題名（和文）

『入唐求法巡礼行記』に関する文献校訂及び古代東アジア諸国間交流の総合的研究

研究課題名（英文） Document revision and the overall research on the exchange between the ancient east Asian nations on 'Nitto Guho Junrei Koki'

研究代表者

鈴木 靖民（SUZUKI YASUTAMI）

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：20052160

研究成果の概要：『入唐求法巡礼行記』を中心として古代の東アジア世界における交流・交通の諸相を研究することを目的として、第一に『入唐求法巡礼行記』自体の詳細かつ丹念な検討を進め、諸本の校訂を経て、データベースを作成した。また、『入唐求法巡礼行記』の記載と円仁の行程を追跡し、具体的な交通路を復原することを目的に現地調査を行った。それらの成果は研究会やシンポジウムで広く社会に公開し、その一端を『円仁とその時代』として一書にまとめた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	6,400,000	0	6,400,000
2006年度	2,600,000	0	2,600,000
2007年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2008年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
総計	14,700,000	1,710,000	16,410,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：円仁 入唐求法巡礼行記 交流 中国・韓国 国際研究者交流 国際情報交換
東アジア データベース

1. 研究開始当初の背景

『入唐求法巡礼行記』の内容は、円仁が遣唐使の一員として渡唐した際の旅行記であり、9世紀初めの日本僧が唐の様子を具体的に記した貴重な文献で、世界三大旅行記の一つとされる。従来から『入唐求法巡礼行記』は、古代史、仏教史、文学などの国内外の研究者の研究対象となっているが、その殆どが『入唐求法巡礼行記』の部分的な引用や日記の訳文化にとどまっており、その全体かつ細

部にわたる校訂・解釈は近年、十分に行われていない状況であった。そして『入唐求法巡礼行記』の写本も容易に閲覧することができず、研究に支障をきたしていたこともあり、写本を簡便に見られることが求められていた。また、円仁が如何なる行程で、渡唐し、巡礼したのか、を円仁の視線に沿って詳細にその景観までも含めた記録を作成する作業は未だ行われておらず、今後の古代東アジア交流史研究を考える上で必要不可欠であるため、『入唐求法巡礼行記』に記載された円

仁の行程記録に即した現地踏査が急務であった。

2. 研究の目的

本研究では『入唐求法巡礼行記』自体の詳細かつ丹念な検討を進め、基礎的な史・資料、研究論文を収集・提示して総合することを第1の目的とし、テキストとしての『入唐求法巡礼行記』の全体像を把握しようとした。それらの資料をもとに調査・研究を進め、『入唐求法巡礼行記』を当該期の日中交流史を超えて、東アジア史全体の中に位置づけることを第2の目的とした。これにより、円仁の行程そのものだけでなく、円仁の活動を成り立たせる当該期の唐の社会的背景なども総合的に考察の対象とし、円仁の行程を復原することにより、求法・巡礼といった宗教的な交流はもとより、遣唐使をはじめとする外交、もしくは交易といった、人・モノ・情報の移動を解明するための実際的な動きを捉えることができ、さらには唐代の交通路を具体的に復原することができる。これらの研究成果を『入唐求法巡礼行記』を核とした9世紀東アジアの社会様相を日本だけでなく中国・台湾・韓国・欧米の研究者に広く公開し、研究・教育に寄与するため、私たちの研究の成果をデータベース化して国内外に公開することも本研究の主要な目的として研究を進めた。

3. 研究の方法

第1に、基礎的な作業である『入唐求法巡礼行記』の1字毎の校訂・訓読の作成を行った。第2に、『入唐求法巡礼行記』をもとに当該期を中心とした日本・唐・新羅・渤海の東アジア諸国間相互の交流活動を、多様な文献史料を渉猟し、併せて考古資料と、中国の現地調査をふまえながら考察し、成果を公にした。

研究作業は以下の通りである。

1. 『入唐求法巡礼行記』巻2について影印本・活字本・訳本の校訂
2. 『入唐求法巡礼行記』巻2の読み下し文作成
3. 『入唐求法巡礼行記』関係資料集の作成
4. 『入唐求法巡礼行記』のデータについてデータベース化を行い、ウェブ上にて公開する。

5. 『入唐求法巡礼行記』に記された円仁の行程（滞在地を含む）についての現地調査（主に中国・日本）。及び円仁の活動における社会的背景についての資料収集及び現地調査。

6. 資料収集及び現地調査の成果の公開。

7. 『入唐求法巡礼行記』の内容に即した研究論文の作成。

8. 1～7の成果をもとにした、古代日本と東アジア諸国における交流活動についての考察と成果公開（研究論文発表やシンポジウム等の開催）。

4. 研究成果

研究成果として、まず『入唐求法巡礼行記』巻2について、影印本はスキャナーで取り込み、1字毎の検索用画像を作成した。活字本・訳本などとの校訂作業を行い、その内容をデータベース形式にした。巻1の校訂作業の成果を公開し、今後巻2以降のデータについても漸次更新するため、公開用ビューワーの開発を行い、また、公開のためのウェブサイトを作成した。

また、注釈作成および行程復原のために中国での現地調査を実施した。山東半島西部・河北省における現地調査では、円仁が歩いたルートをほぼ特定することができ、唐代に遡る直線の官道を確認、唐代の寺院跡や城県の遺跡などを調査し、また現地の研究者とも学術交流を図る事ができた。山西省五臺山での調査では、従来推定される円仁の行程は修正が必要であり、今後記録したデジタルビデオとデジタルカメラの内容・さらに地図や地方志などから詳細な検討と行程の確定を行う必要が生じた。江蘇省揚州・楚州・連雲港市では、円仁が中国へ上陸した地点などを調査し、また外邦図や旧ソ連図といった地図や衛星写真などを用いて複合的に円仁の求法の

行程調査を行うことができた。陝西省西安市では、円仁が長安滞在中に訪れた寺院や役所などを細かく検討し、また唐代長安城の城壁や門跡、長安周辺の交通路を現地の研究者とともに踏査することで、具体的な円仁の行程調査を行うことができた。

それとともに入唐求法巡礼行記研究会を発足させ、広く一般の方にも研究会に参加できるようにして、研究の交流促進・公開を図った。研究会では研究報告や調査報告を行い、または研究者を招聘して講演会を行った。その上で、2008年4月29日に栃木県立博物館において韓国・中国より研究者を招聘し、計11名の報告者による国際シンポジウム「円仁と古代の東アジア—『入唐求法巡礼行記』の世界」を開催した。これにより、広く一般にむけて本研究の内容を報告し、活発な議論がなされた。また30日には栃木県内の円仁関係史跡を巡見し、円仁に関する知識を研究者のみならず一般の人々に深めることができた。そして、この成果の一端を鈴木靖民編『円仁とその時代』（高志書院）としてまとめ、2009年2月に刊行した。

これらにより、遣隋使・遣唐使の研究はもとより、9世紀における日本史および東アジア史の実像を史料に即して明らかにすることができる。また今後の『入唐求法巡礼行記』研究における基礎的研究となるだろう。さらに中国・韓国などの研究者とも共通の議題として学术交流を促進させることができ、当該期の東アジア諸国間における歴史研究を確固たる文献的、史料的基础に立脚して、一層発展させる役割を担う意義深いものとなると確信している。この研究を推進することで、日本僧円仁の在唐活動、日本古代の遣唐使研究の公開を通して、学界において、現在内向きの傾向にある日本の古代史研究を東アジア諸国や欧米に発信するのみでなく、諸国間

の歴史認識の相対化、国際化のためにも少なからず貢献することになるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 23 件)

1. 鈴木靖民 「百済王興寺の舍利容器・莊嚴具と飛鳥寺」『東アジアの古代文化』136号、2008年、pp.97-119、査読無
2. 鈴木靖民 「渤海の国家と対外交流」『東アジアの中の渤海と日本』韓国・景仁文化社、2008年、pp.3-40、査読無
3. 鈴木靖民 「日本律令の成立と新羅」『日唐律令比較研究の新段階』山川出版社、2008年、pp.240-256、査読無
4. 鈴木靖民 「古代東アジアのなかの日本と新羅」『前近代の日本列島と朝鮮半島』山川出版社、2007年、pp.43-66、査読無
5. 鈴木靖民 「遣唐使井真成の出現」『危機と文化』8号、2006年、pp.5-23、査読無
6. 鈴木靖民 「中国西安の日本遣唐使墓誌与墓主井真成」『周秦漢唐文化研究』4輯、中国・三秦出版社、2006年、pp.294-311、査読無
7. 鈴木靖民 「東北アジア史のなかの渤海の国家と交流」『古代日本と渤海』大巧社、2005年、pp.45-66、査読無
8. 佐藤長門 「円仁の足跡を訪ねて(IV)-江蘇省-」『栃木史学』23号、2009年、pp.84-115、査読無
9. 佐藤長門 「円仁と遣唐使・留学生」『円仁とその時代』高志書院、2008年、pp.191-215、査読無
10. 酒寄雅志 「最澄の将来目録と遣唐使の印」『栃木史学』20号、2006年、pp.19-57、査読無
11. 酒寄雅志 「古代日本海の交流」『日本海域歴史大系』2巻古代編、清文堂、2006年、pp.175-205、査読無
12. 酒寄雅志 「渤海の遣唐使」『遣唐使の見た中国と日本』朝日新聞社、2005年、pp.303-309、査読無
13. 石見清裕 「唐代墓誌の資料的可能性」『史滴』30号、2008年、pp.109-122、査読無
14. 石見清裕 「唐代墓誌史料の概観—前半期の官撰墓誌・規格・行状との関係—」『唐代史研究』10号、2007年、pp.3-26、査読無
15. 石見清裕 「唐代『井真成墓誌』の史料の性格と理解傾向」『日本史攷究』30号、2006年、pp.1-18、査読無
16. 石見清裕 「唐代凶礼の構造—『大唐開元礼』官僚喪葬儀礼を中心に—」『アジア文化の思想と儀礼』春秋社、2005年、pp.117-142、査読無

17. 石見清裕「唐代長安の外国人—国子監と留学生—」『東アジアの古代文化』123、2005年、pp. 37-50、査読無
18. 田中史生「古代の奄美・沖縄諸島と国際社会」『古代中世の境界領域』高志書院、2008年、pp. 49-70、査読無
19. 田中史生「六世紀の倭・百済関係と渡来人」『百済と倭国』高志書院、2008年、pp. 59-174、査読無
20. 田中史生「江南の新羅人交易者と日本」『前近代の日本列島と朝鮮半島』山川出版社、2007年、pp. 5-42、査読無
21. 田中史生「新羅人与大宰府交易」『中韓古代海上交流』中国・遼寧民族出版社、2007年、pp. 95-109、査読無
22. 田中史生「九～十一世紀東アジアの交易世界と奄美諸島」『東アジアの古代文化』130号、2007年、pp. 168-177、査読無
23. 田中史生「唐人の対日交易—『高野雜筆集』下巻所収「唐人書簡」の分析から—」『関東学院大学 経済系』229集、2006年、pp. 11-23、査読無

[学会発表] (計 4 件)

1. 鈴木靖民、王興寺と飛鳥寺の創建、國學院大學文化講演会「古代文化の源流を探る—百済王興寺から飛鳥寺へ—」、2008年11月15日、國學院大學
2. 酒寄雅志、唐渤海使鴻臚井碑の歴史的意味とその現在、中国石刻合同研究会、2008年7月27日、明治大学
3. 酒寄雅志、渤海の都城制度、都市と環境の歴史学：5年間の成果、2009年3月15日、中央大学
4. 田中史生、飛鳥寺創建と渡来工人・僧侶たち、國學院大學文化講演会「古代文化の源流を探る—百済王興寺から飛鳥寺へ—」、2008年11月15日、國學院大學

[図書] (計 5 件)

1. 鈴木靖民編『円仁の時代』高志書院、2009年、300p
2. 鈴木靖民編『古代日本の異文化交流』勉誠出版、2008年、660p
3. 佐藤長門『日本古代王権の構造と展開』吉川弘文館、2009年、343p
4. 田中史生『越境の古代史—倭と日本をめぐるアジアネットワーク—』筑摩書房、2009年、245p
5. 田中史生『倭国と渡来人—交錯する「内」と「外」—』吉川弘文館、2005年、217p

[その他]

入唐求法巡礼行記研究会ウェブサイト
『入唐求法巡礼行記』データベース

<http://www.junreikoki.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 靖民 (SUZUKI YASUTAMI)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：20052160

(2) 研究分担者

酒寄 雅志 (SAKAYORI MASASHI)
國學院大學栃木短期大学・日本史学科・教授
研究者番号：90187055 [期間：2005-2007]

石見 清裕 (IWAMI KIYOHIRO)
早稲田大学・教育・総合学術院・教授
研究者番号：00176562 [期間：2005-2007]

佐藤 長門 (SATOU NAGATO)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90306902 [期間：2005-2007]

田中 史生 (TANAKA FUMIO)
関東学院大学・経済学部・教授
研究者番号：50308318 [期間：2005-2007]

(3) 連携研究者

酒寄 雅志 (SAKAYORI MASASHI)
國學院大學栃木短期大学・日本史学科・教授
研究者番号：90187055 [期間：2008]

石見 清裕 (IWAMI KIYOHIRO)
早稲田大学・教育・総合学術院・教授
研究者番号：00176562 [期間：2008]

佐藤 長門 (SATOU NAGATO)
國學院大學・文学部・教授
研究者番号：90306902 [期間：2008]

田中 史生 (TANAKA FUMIO)
関東学院大学・経済学部・教授
研究者番号：50308318 [期間：2008]

(4) 研究協力者

馬 一虹 (MA YIHONG)
中国社会科学院・歴史研究所・副研究員

王 海燕 (WANG HAIYAN)

浙江大学・歴史学系・副教授

葛 継勇 (GE JIYONG)

鄭州大学・外国語学院・講師